

令和元年度第3回神奈川県公立高等学校協議会
議 事 録

- 1 日 時 令和元年8月29日(木)
14時00分～15時00分
- 2 場 所 神奈川自治会館 805・806会議室
- 3 出席委員等 田沼 光明 高木 茂 大澤 一仁 竹内 博之
柏木 照正 藤野 利夫 鍋山 英彦 細見 勝典
高橋 直樹 松尾 聖司 濱田 啓太郎 上條 茂
鳴下 博厚 足立原 隆之

(敬称略)

座長（松尾委員）

定刻となりましたので、第3回神奈川県公立高等学校協議会を開催いたします。前回に引き続き、座長を務めさせていただきます神奈川県私学振興課長の松尾でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

本会議は原則公開とされております。取材・傍聴者等につきましては、既に入室されておりますので御承知おきください。また、本日は神奈川県立高等学校長の代表・井坂様が所用によりご欠席になりますのでご承知おきください。

協議に入ります前に団体から文書をいただいておりますのでご報告します。前回は配付していますが「かながわ定時制・通信制・高校教育を考える懇談会」から7月29日付けで要請文書が提出されております。また「かながわ教職員組合連合」及び「神奈川県高等学校教職員組合」から連名で8月16日付けで申し入れが提出されておりますので、写しを配付しております。

なお、要請文書を提出された「かながわ定時制・通信制・高校教育を考える懇談会」から口頭陳述の申し入れがありますので、本日議事に入る前に陳述の機会を設けたいと思いますがよろしいでしょうか。

全委員 異議なし。

座長（松尾委員）

ありがとうございます。それでは文書を提出されました懇談会の代表の方、恐れ入りますが、時間は3分以内でお願いしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

陳述者

かながわ定時制・通信制・高校教育を考える懇談会の畑山と申します。（資料説明）

座長（松尾委員）

それではお手元に配付しております会議次第に基づきまして議事を進めて参ります。議題は前回に引き続きまして「令和2年度の高等学校生徒入学定員計画の策定について」です。前回の会議でもお話ししましたが当協議会においては例年この時期に入学定員について精力的にご協議をいただきまして、公私間での合意を得て9月に予定している「神奈川県公立高等学校設置者会議」にその協議結果を報告することが当協議会の役割となっております。

具体的な協議に入る前に、まず前回の会議における議論を整理させていただきたいと存じます。前回の会議では平成31年度入学者選抜の実績や取組みの成果が報告され、それぞれの立場から様々なご意見が出されました。定員目標の設定方法について昨年度は平成22年度から3年間続いていた定員割振方式から公私各々が自らの責任において実現を目指す定員目標を設定する方法に変更した7年目でしたが、令和2年度の定員計画においても昨年度に続いて「公私が自らの責任において実現を目指す定員目標を設定する」こ

とにより策定することで、公私の考えは一致していることを確認しました。また合意文書の文言については、時点修正以外の部分は特に文言の修正は必要ないことを確認しました。

そして公立・私立それぞれの具体的な定員の目標数値については、平成31年度の入試結果を持ち帰りご検討いただくことになっておりました。この後公私から検討していただいた結果をご報告していただきますが、その前に前回の協議会で合意文書中の文言で時点修正を要する部分については事務局で修正し、今回の協議会に提出させていただくことになっておりました。

つきましてはその点について確認させていただきます。修正後の合意文書についてはお手元の資料3です。こちらに合意文書の座長案としてお示ししておりますので、内容について事務局から説明をお願いします。

事務局

それでは私学振興課から説明させていただきます。お手元の資料3をご覧ください。合意文書の座長案になり、下線部分が昨年度からの修正箇所となっております。

まずタイトルの年度を令和2年度に改めました。また括弧内の合意の日付は現在空欄としております。次の前文にあたる部分についてこれまでの合意の日付を※印の注としてまとめて記載していますが、最後に昨年の合意の日付（平成30年9月4日）を付け加えました。

次に2ページ目の中ほど2 定員計画の策定（1）では、三箇所年度の数字を修正しています。5ページ目ですがタイトルの年度を令和2年度とし、三つ目の点の公立の入学定員の目標人数と四つ目の点の私学の入学定員の目標人数は空欄にしています。最後に公立中学校卒業予定者は今回見込んでいる数値の67,062人に修正しました。以上が修正箇所です。

座長（松尾委員）

では、資料3につきまして時点修正の内容説明がありましたが、何かご質問はございませんでしょうか。

全委員 なし。

座長（松尾委員）

ないようですので時点修正については案のとおりとします。それでは定員の目標数値について、公私それぞれからご報告をいただきたいと存じます。先ほど資料3の5のところ目録数値が空欄になっておりますけれども、ここをどうするか検討していただいた目標数値のご報告をお願いします。また数値の設定の考え方についても、併せてご説明をいただければ幸いです。それでは私学側からご説明をお願いします。

田沼委員

検討しました結果、14,550人という数をご提案させていただきます。昨年よりも50人マ

マイナスとなりますが、中学3年生の人口が大幅に減ることも考えましてマイナスという形にしました。ただし、去年も議論にありましており私学は学則定員に基づいて規模が一定になっておりますので、あまりこの数字を大きく上下に動かすということはありません。去年の数を踏まえ14,550という数字を提案させていただきました。

座長（松尾委員）

ありがとうございました。続きまして公立側からお願いいたします。

濱田委員

持ち帰り検討した数字でございますが、公立としては41,100という数字を目標とするということで考えをまとめてまいりました。この数字ですが昨年度、当時の予測では公立中学校卒業予定者の減少は413人という比較的小さな幅でした。実際には398人で予測を少し下回る数字でしたが、令和2年度入学者選抜に向けましては公立中学校卒業予定者の人数が1,680人減と昨年度に比べ4倍を超える大きな減少幅になっております。これまでも公私協調という中で全日制進学率の向上を目指すことでそれぞれが目指す目標を定め、その目標達成に取り組む形で進めてきました。平成28年度から県立高校においては県立高校改革の取組みを進めているところですが、統廃合に関する記載をしている考え方をまとめている中に公立中学校卒業生・公立中学生の進路希望等を踏まえて全日制の進学率の向上に努めるという基本の考え方があります。その考え方に立つと高校教育の保障の観点から生徒数の動向に対応した形で取り組むということ、全日制の進学率の向上を図るために必要な定員数を確保すること、中学生の進路希望・高校タイプ・地域のバランス・生徒の通学の利便性、そういったことに関して適正に配置していくこと、これは学校の配置の問題ですが基本的な考え方においてはそういった考え方に立って公立高校として定員の確保に努めています。生徒数が大きく減少する中でそれに対応した形で定員を適切に定めていかなければならない、一方で中学生の全日制進学率の向上にも努めていかなければならない、そうしたことを考慮する必要がある、これがまず一点目でございます。

それから先ほど私学側からもお話がありましたが、私立学校に対する学費補助の充実が図られている中で私学への進学者が増加していることは前回の公私立高等学校協議会の場でもお話があったかと思えます。確かに公立側も私立側も掲げた目標には到達はしていません。それは厳然たる事実でありますけれども、公立側は実は大きく入学者を減らしてしまっている状況があり、私立側は目標には届いていないけれども前年度の数字よりは多い生徒が入学されているという状況があります。

そして三点目は公立として厳しいところですが、定員割れにより二次募集を実施せざるを得ない学校がこのところ拡大している状況があります。

これら三つの観点を総合して考えた結果、公私協調の中で全日制進学率の向上に努めるための公立側の定員としては41,100というところが適切な目標ではないかと考えて、今日持ってきたところでございます。

座長（松尾委員）

ありがとうございました。ただいま私学側・公立側からそれぞれ目標数値についてご説明をいただきました。確認しますと私学側は14,550人程度を入学定員の目標、公立側は41,100人程度を入学定員の目標とするということになります。それぞれご説明していただきました目標数値の内容や考え方につきまして、何か確認したいことやご質問等があれば承りたいと思っておりますがいかがでしょうか。

全委員 なし。

座長（松尾委員）

それでは公私双方から定員の目標数値が出されましたのでこの二つの数値を元に目標が達成された場合、全日制進学率がどうなるかを確認したいと思います。事務局で計算をお願いします。

事務局

全日制進学率を計算した結果をご説明します。公立の定員目標を41,100人、私学の定員目標を14,550人とし、県外等への進学者を前年並みの比率8.1%で計算した場合、全日制進学率は91.1%になります。

座長（松尾委員）

ありがとうございました。91.1%ということですので、これは昨年度策定した計画と同様の数値になります。それではここで一旦休憩時間を取りたいと思います。公私それぞれ先ほど提案された数値目標についてご確認をいただきたいと思っておりますけれども、よろしいでしょうか。

全委員 異議なし。

座長（松尾委員）

それでは公立・私立それぞれ控室を用意しておりますので、休憩時間中にそちらに移動していただきご確認をお願いします。10分程度休憩時間をとりますのでそれまでにこちらにお戻りいただきたいと思っております。ではよろしく願いいたします。

休 憩

座長（松尾委員）

それでは協議を再開させていただきたいと思っております。公立・私立それぞれ提案された定員目標数値についてご検討・ご確認をしていただきたいと思います。それではそれぞれご意見を頂戴したいと思います。まずは私学側からお願いします。

田沼委員

私学としては公立側の41,100を了承したいと思います。1,600人を超える中学3年生の減少ということで、それを考慮した数値として妥当なものではないかと思えます。私学も50人ですが減らすということで対応したいと思えます。私学としては責任を持ってこの数をとることを目指したいと思っております。今年共学化する学校・校名を変更する学校等経営努力している学校もございますし、私学としては何としてもこの責任を果たしたいと思っております。これによって全日制進学率は91.1%で去年より0.3%の向上ということですが、中学生の進路の多様化の質も少し変わってきているかもしれません。これは今後よく精査し無理のない形で全日制進学率の向上を目指したい、私学側も頑張っていきたいと思えます。

座長（松尾委員）

ありがとうございました。続きまして公立側からお願いします。

濱田委員

議論が長引きましてお時間をとらせてしまい申し訳ございませんでした。議論しました結論を申し上げますと、私学側からご提示いただいた14,450人程度という目標数値について公立側として了承したいと思えます。公立としては私学側からご了承いただけたらとお話をいただきました41,100人という数値を目標とします。減少は少し大きいですが卒業予定者が1,680人減少するということを考え、引き続き公私で協調しながらそれぞれの定めているこの目標についてしっかり達成に向けて努力をしていく。そのために公立としても中学生にどのような学校にどういった特色があってどんなことがその学校に行けば学べるのか、そういったことをしっかりとご理解いただきながら学校選びをしていただく、またこれまでも全公立展・私学側では全私学（中高）展・公私協調で実施している各地区の説明相談会、そういったものもやっています。またこの後も各学校別の学校説明会や不登校傾向のある生徒向けの相談会等を実施していきますので、そうしたところで積極的に各学校の教育課程上の特色等をアピールしていきながら、学校選択をより適切にしていきたい。また公立高校としての適切な定員を定めて、その各学校の定員をしっかりと確保できるように努力していくということでやっていきたいと考えています。

座長（松尾委員）

ありがとうございました。公私それぞれ提案のあった目標数値については了承すること、それぞれが公私協調した上で目標達成に向けて努力していくこと、そのようなご意見であったと思えます。

他の委員・オブザーバーの方からご意見がありましたら伺いたいと思えますが、いかがでしょうか。

全委員 なし。

座長（松尾委員）

それでは改めて確認させていただきたいと存じます。資料3の5の空欄になっている箇所です。こちらの合意文書案の空欄の個所について公立の定員目標は41,100人程度、私立の定員目標は14,550人程度と記載されることとなります。よろしいでしょうか。

全委員 異議なし。

座長（松尾委員）

ありがとうございます。それでは予定していた協議は以上となります。

続きまして次第のその他となります。こちらでは協議事項を用意していませんが、何かございましたらご意見等をお願いします。いかがでしょうか。

全委員 異議なし。

座長（松尾委員）

それでは本日のまとめに入ります。ただいま公私の双方からいただいた定員目標数値、提示しました合意文書の案文についてご了解をいただきました。これを踏まえ案の文章整理をします。本日の公私協議会の段階としては合意が整ったところですが、正式には9月上旬に開催予定の設置者会議の中で私から協議の結果について報告し、設置者会議の場で定員計画の最終決定とさせていただきます。

濱田委員

終わろうとしているところ申し訳ございません。折角こういう形でオブザーバーとしてご出席をお願いしている皆さんもおります。前回もこの場で公立中学校の代表の上條先生から中学生の動向や学校側の受け止めについて、どのようにお考えかというところでお聞かせいただきました。前回、田沼委員からも「中学生の進路の多様化等が進んでいるのではないか」「今後そのあたりの考え方は」という話もありましたので、この場はこれで合意したというところではありますが私どもがどういうふうに今後考えていくべきか、認識していく部分があればぜひそれぞれの立場で感じている部分を簡単に構いませんのでお聞かせいただけますと今後の参考になると思います。よろしければお話いただけないでしょうか。

座長（松尾委員）

進路の多様化についてということでしょうか。

濱田委員

それに限らずここで協議した内容に関してそれぞれ立場があると思いますので、感じていることがあればお願いします。公立側・私学側は先ほどそれぞれ協議し代表者がコメントしておりますので、それぞれ委員の想っているものはまとめて発言していると考えてい

ます。

オブザーバーの方々が聞き役となってしまったところがありましたので数字に限らず、例えば中学生の今の進路状況等で何か感じていることでも結構です。今後我々がこういう定員計画等のあり方そのものからして考えていくための何か参考になるようなお話をいただけたら、私として大変ありがたいと思っています。急に話を振りまして大変恐縮ですが、感じていることを何か一言でもおっしゃっていただけないでしょうか。

座長（松尾委員）

よろしければオブザーバーの方々から感じていることを伺いたいとのことで、いかがでしょうか。

上條オブザーバー

公立中学校長会の代表の上條と申します、どうぞよろしく申し上げます。ご協議ご苦勞様です。今、濱田委員からお話のあった点について中学校の進路選択が多様化する中で、中学生は県内全域で色んな高校を進学先として選ぶようになっていきます。先ほどお話があったように多様化という点について、どのような多様化なのか詳しい分析をしていく必要があるかと思っています。全日制進学率の実績として昨年度と比較し数字上では0.1%減少しましたが、中学校として減少したという印象ではなく生徒たちが希望する高校に入学できているというような印象があります。是非このような協議を踏まえた上で定員を決めていく、この方法を継続していただければと考えます。

座長（松尾委員）

ありがとうございます。では、鴨下オブザーバーからお願いします。

鴨下オブザーバー

私学保護者会連合会の代表の鴨下と申します。初めて会議に参加させていただきましたが、前回の資料は読み込ませていただきました。感じましたこととして、私学の保護者でするので、学校経営に口出しする立場にはありませんが、私学というのは各学校が建学の精神を持ち、各学校の特色や魅力、強みを打ち出し、それを中学生の皆さんに理解してもらい、進学先として選んでいただくことに尽きると思います。保護者会としましては、私学展や相談会などの様々な機会に学校側に協力し、選んでいただくための活動をしっかり行っていきたいと思います。ヒントになるような話ではありませんが、意見としては以上です。

座長（松尾委員）

ありがとうございます。では、足立原オブザーバーからお願いします。

足立原オブザーバー

神奈川県PTA協議会の代表の足立原と申します。前回も参加させていただきました、

意見ではありませんが簡単な感想として聞いていただければと思います。進学先が多様化しているというお話が何度か出た中で、自分の周りの中学生でも定時制・通信制に入学されたお子さんがおまして、そこで変わったなと思うのがその親御さんです。一昔前ですと行くところがなく定時制等に入学したという話がありましたが、ここ数年では通信制等も特色のある学校が増えたということです。保護者の方からお子さんに目標があって選んで通信制に決めたというご意見も伺いましたので、保護者の価値観も少し変わってきたのかなというのがここ数年の感想となります。また、資料を確認させていただき不登校の生徒が増えているのが気にかかるところです。不登校のお子さんも一人一人条件が違いますが、ここ最近そういう方も入学する学校が定時制や通信制で出てきたのかなという感想があります。もう一つ気になるのがN高校です。ネット等で最近出てきている学校ですが、10年、20年そういう学校が繁栄すると今後入学する生徒がどう変わっていくのだろうかという感想があります。

座長（松尾委員）

どうもありがとうございました。それぞれの立場で感じていること、貴重なご意見をいただけたと思います。本当にありがとうございます。色々な観点があり、保護者の価値観が変わっているのではというご指摘もありましたし、我々としても今後協議する上で非常に参考になるご意見だったと思います。濱田委員から何かございますか。

濱田委員

特にございません。オブザーバーの皆様ありがとうございました。

座長（松尾委員）

それではこれもちまして本日の神奈川県公立高等学校協議会を終了させていただきます。本日は大変熱心にご審議いただきありがとうございました。